

令和7年度 奈良県知事賞

税金と「公平」

宇陀市立榛原中学校 3年 村田 瞬

「税金が高すぎる、税金を納めたくない。」僕は最近、大人達がこのようなことを話しているのを耳にした。ここで、僕は一つ疑問に思ったことがある。それは、税金を納めることは当たり前のことなのになぜそんなことを言うのか、ということだ。次に、大人達はこう言った。

「なぜ税金を納めなければならないんだ。」

なぜ税金を納めるのか、僕は考えてみたが、義務だからとしか思いつかなかった。そこで、僕は税金を納める理由について調べてみることにした。

まず、税金を納める理由として、僕たちが公共サービスを受けたり、公共施設を使ったりすることの対価というものがある。僕たちが普段当たり前のように使っている学校、病院、道路などは税金によって運営されているものだったのだ。税金を納めることが国や社会のためだけではなく、自分たちのためであるという考え方はなかったから、この考え方は素晴らしいものと思った。

次に、税金を納める理由として、社会の公平性を保つというものがある。これは、先程のサービスや施設を運営するための費用を国民で互いに支え合い、共によりよい社会を作ろうという意識が大切だ。一人でも税金を納めない人がいると、「公平」ではなくなってしまうため、憲法で納税の義務が制定されている。

さらに、お金を多く稼ぐ人が多く税金を納めることで、国民の所得格差が広がらないようになっている。僕はこれに対して、「公平」ではないのではと思ったが、それは「平等」という話であり、「公平」とは違うらしい。もし、納税を「平等」にしたら国民の所得格差が広がり、とても問題になってしまう。

税金とはとても考えられていて、僕たちにとって不可欠であり、僕たちの義務であり、権利であって、とても「公平」なものであることを痛感した。

僕たちの身の回りでも税金は使われていて、僕たちも税金を使っていること、この社会は税金のおかげで「公平」であるということ。これは、一人の国民として、一人の納税者として知っておくべきことだと僕は思う。

これからは、税金の役割をしっかりと理解し、より税金に関心を持っていきたい。